

## 内部障がい【膀胱または直腸】のある方をサポートするとき

【大切なこと】 ひとり、ひとりの状況を把握しましょう

### ■ 主な特性等

- 自分の意思で尿や便の排泄がコントロールできません。
- 腹部に造った人工膀胱や人工肛門（ストーマ）に、排泄物を受けるための使い捨ての袋（パウチ）を常時装着、またはおむつを使用しています。
- 使い捨ての袋（パウチ）を利用している人は、人工膀胱や人工肛門が腹部に造設されているため、温水が出る大型流し台（オストメイトトイレ）が必要となります。

※「オストメイト」…人工肛門または人工膀胱を造設した方のこと

### ■ 避難誘導の仕方

- 安否確認時に、安全な場所において、医療機器の継続使用が可能な状態であることを確認しましょう。
- より本人の状態に適した避難場所への移動を希望するかを確認しましょう。

#### 【自力で避難することが困難な場合】

車いすやストレッチャー等の移動用具を確保することが望ましいですが、移動用具が確保できない場合には、毛布等で作った応急担架により避難をお願いします。また、必要に応じ迅速に安全が確保された医療機関への誘導・移送をお願いします。

## ■ 避難生活支援で気をつけること

- 避難所では「オストメイト」であることを確認できる仕組みの確立をお願いします。
- トイレの使用時間が長くなるので、他の避難者への配慮をお願いします。
- 精神的に不安定になると体調が変化しやすい（下痢しやすいとか皮膚トラブルを起こしやすい）ので、看護師のケアが必要になることがあります。
- 医療器材の消毒や交換をするときは、清潔な治療スペースが必要になります。
- 医療的措置が必要と判断される場合は、安全が確保された医療機関への速やかな移送をお願いします。
- 福祉避難所には災害用装具等の備蓄が必要となりますので配慮をお願いします。

### 【避難所での支援】

- 免疫力や体力が低下したり、装具・器具の交換等が必要な方のために、衛生等環境面に配慮をお願いします。
- 非常食で対応できない場合があるので、食事療法に合致した飲食物の確保をお願いします。
- 避難所周辺の医療関係者、かかりつけ医等との連絡方法の確保をお願いします。
- プライバシーへの十分な配慮をお願いします。

## ■ 災害発生時に困難なこと

- 自力歩行や素早い避難行動が困難な場合が多いです。

## ■ 本人、家族等から支援者へ (知っておいてほしいことを記入しましょう)

(自由記入欄)

(例) トイレの使用時間が長くなります。また、オストメイト使用者は便意や尿意を感じたり、我慢することが出来ません。ご配慮、ご理解をお願いします。

.....

.....

.....



## ■ 災害発生時にすること、気をつけること

- 安否確認時に、安全な場所において、医療機器の継続使用が可能な状態であることを確認しましょう。
- 自宅で災害が発生したときは、準備してある非常持出品を持って避難しましょう。

## ■ 避難するとき気をつけること

- 無理な避難行動は避けましょう。
- 状態に適した避難場所への移動が必要か判断したうえで避難しましょう。

## ■ 避難生活で気をつけること

- 精神的に不安定になると体調が変化しやすい（下痢や皮膚トラブルを起こしやすい）ので、体調の変化に気づくよう心がけましょう。
- 医療器材の消毒や交換等の際は、清潔なスペースで行いましょう。
- 避難所や自宅からの通院手段を確保しましょう。